

第1学年 道徳科（人権）学習指導案

- 1 主 題 友だちの願いに気付き 誰とでも仲良くすごそう
人権の視点 3-(2)-ア 人間関係の活性化
道徳の内容項目 B-(9) 友情・信頼

- 2 資 料 「いっしょに あそぼ」(出典：ほほえみ、改作)

3 主題設定の理由

本学級の児童は、明るく元気で休み時間にはほとんどの児童が外へ出ておにごっこやボール遊びなどをして楽しく遊んでいる。また困っている児童には声をかけたり手をさしのべたりして助け合う姿も見られる。授業での話し合い活動で質問をしたり応えたりする中で、お互いのことを知る機会も増えてきた。一方で、「へただからだめ。」「うまいからいい。」とサッカー遊びのチーム分けでトラブルがおきたり、「走るのが遅いから。」という理由でおにごっこに入れようとしなかったりなど、無意識のうちに弱い立場に立たせる場面もあり、弱い立場の友だちの願いに気付くことができずにいる児童も見られる。そのため、友だちと些細なことで言い争いやけんかに発展することが時々見られる。

本教材は、主人公のわたしが、みんなと一緒に遊びたいと願いながらも、みんなの輪の中に入ることができないなつみちゃんと、自分の思いをはっきりと言うはるちゃんとの休み時間の出来事を通して、葛藤しながらもみんなと仲良く遊ぶためにはどうしたらよいか考え、相手の願いに寄り添いながら行動していく話である。わたしは、なつみちゃんが一人でいることに気付き遊びに誘うも、はるちゃんに「だめ。」と拒まれてしまい遊べないでいる。わたしは、みんなと遊びたいはずなのに独りぼっちでいるはるちゃんのことが気になりながらもそのまま遊び続けてしまう。そこで、一緒に遊んでいたけんちゃんの「こんなのおかしいよ。」というつぶやきを聞いた私は、はっとして考え込む。はっとしたわたしの気付きについて考え、意見交流をすることで、友だちの願いに気付き、寄り添うことの大切さを感じ取らせることができる。このことから、本教材はみんなと仲良く遊ぼうとする意欲を高めるのに適している。

そこで、指導にあたっては、教材のあらすじや登場人物の気持ちを考えやすくするために挿絵を用いて分割提示する。まず、わたしが「いっしょにする？」となつみちゃんを遊びにさそったものの、はるちゃんに「だめ。」と言われて何も言い返せなかった、わたしの気持ちを考えさせる。次に、わたしが「へんなきもち」と思っている理由について考えさせることで、なつみちゃんと遊びたいけれどはるちゃんに断られるかもしれないと2人の間で葛藤しているわたしの気持ちに迫らせる。さらに、一緒に遊んでいたけんちゃんの「こんなのおかしいよ。」というつぶやきをきっかけに、はるちゃんとも一緒に仲良く遊びたいが、なつみちゃんと遊ぶとはるちゃんたちと遊べなくなるかもしれないという自分の心の弱さからなつみちゃんの願いに寄り添い行動することができていなかったことをおさえ、わたしの心に着目させる。さらに、みんなにどのような声かけをすればみんなと仲良く遊べるのかを考えさせるために役割演技を取り入れる。最後に誘い合ってみんなで遊ぶ場面を読み聞かせ、みんなと仲良くするためには他者の願いに寄り添うことの大切さに気付かせ、行動する意欲を高めて学習を終えられるようにしたい。

4 人権の視点

弱い立場にある友だちの願いや思いに寄り添うことができ、誰とでも仲良くしていこうとする気持ちをもつことができる。

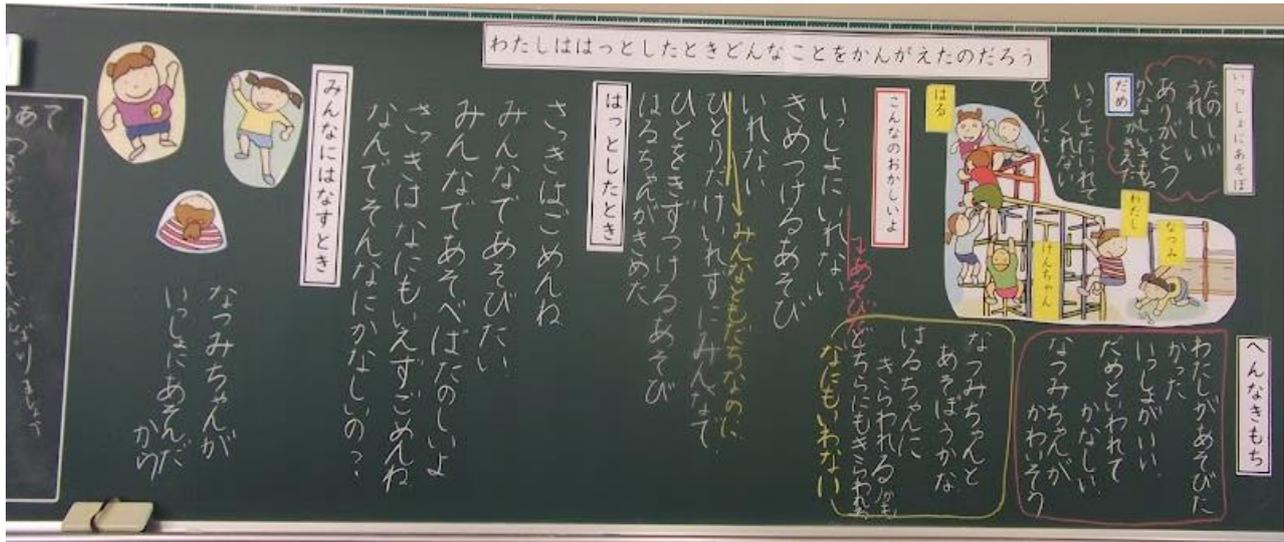
5 本時の目標

友だちの願いに気付いて行動し、誰とでも仲良く遊ぼうとする意欲をもつ。

6 学習展開

児童の活動	指導上の留意点 (◇評価)	備考
1 友だちと遊んでいるときの様子や思いを話し合う。	○友だちと遊んだ経験を想起させることで、誰かと一緒に仲良く遊んだ時の楽しさやうれしさを思い出させる。	(全 体)
わたしははっとしたときどんなことをかんがえたのだろう		
<p>2 話を聞いてわたしの気持ちを考える。</p> <p>(1) 「だめ。」といわれて、なつみちゃんを入れずに遊んだとき。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいそう ・一緒に遊びたい ・さみしそうだな ・どうしてだめなのかな ・なつみちゃんとあそびたいけど、はるちゃんにきらわれるかも <p>(2) 「こんなのおかしいよ。」というけんちゃんの声にはっとしたとき。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か言いたいけどどうしよう ・わたしが言えばよかった ・なつみちゃんが一緒に遊べないのはおかしいよ ・なつみちゃんも遊びたいはずなのに黙っていてごめんね <p>(3) けんちゃんやみんなに話すとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなといっしょにあそぼうよ ・なつみちゃんも友だちだから誘おうよ 	<p>○教材の内容を理解しやすいように場面ごとに分けた挿絵を見せながら読み聞かせる。</p> <p>○「だめ。」と言われてさみしそうに一人で遊んでいるなつみちゃんの様子について話し合わせ、なつみちゃんの様子や気持ちをつかませてからわたしの気持ちに迫らせる。</p> <p>○みんなと仲良く遊びたい気持ちからなつみちゃんを誘ったことをおさえる。</p> <p>○はるちゃんと遊んでいるのにへんなきもちと思っているわたしに着目させ、わたしがなつみちゃんと遊ぶと、はるちゃんたちと遊べなくなるかもしれないという葛藤に共感させる。</p> <p>○けんちゃんの言葉について話し合うことで、なつみちゃんの思いに気付きながらも、何も言わないわたしの心の弱さに気付かせる。</p> <p>○はっとした時に考えたことをワークシートに書かせ意見交流させることで、相手の願いに気付き寄り添って行動しようとする意欲をもたせる。</p> <p>○はるちゃんに対して攻撃的であったり、仲間はずれにしたりする発言にならないよう、みんなと仲良く遊びたいわたしの願いをとらえさせる。</p> <p>○役割演技を入れ、どのように声をかければみんなと仲良く遊べるのかを考えさせることで、自分事として考え行動できるようにする。</p> <p>○誰かに偏って話すことにならないように切り返しや揺さぶりを入れることで配慮する。</p> <p>◇友だちの願いに気付いて行動し、だれとでも仲良くしようとする意欲をもてたか。</p> <p>○なつみちゃんを誘う言葉を考えることで、行動する意欲を高める。</p>	<p>挿 絵 短 冊</p> <p>ワークシート (個 人) ↓ (ペ ア) ↓ (全 体)</p> <p>役 割 演 技 名 札</p>
3 教材の終末を聞き、本時の学習をふり返る。	<p>○挿絵を見せながら一緒に遊ぶなつみちゃんのにこにこしている姿を見て嬉しくなったわたしの気持ちに共感させる。</p> <p>○本時の学習をふり返り、感想を共有することで実生活でのよりよい人間関係作りをしようとする意欲をもたせる。</p>	(全 体) 挿 絵

7 板書



8 事後研修のグループ協議のスライド

【A】グループ協議

よかった点	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・17人全員が発表できたこと。 ・授業者が児童のつぶやきを上手に拾っていた。たとえ1年生の言葉を上手に言語化されていた技が素晴らしい。子どもの言葉をつないで児童に返していた。 ・対話に取り組まれていたことが授業に生かされていた。 ・長い文章で発表できる子がいることに驚きがあった。長い文章で発表することを普段から取り組まれている点よかった。授業者が切り返しても答えることができていた。 ・切り返しの技術：普段からの取組。 ・「はるちゃんだけが悪い？」という問い返しがよかった。 ・視点がころころ変わったのに子どもたちがついてきていた点よかった。 ・今日の授業が今後の休み時間に活かそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「決めつけ」という言葉が少し気になった。今日の決めつけはちょっと違うような気がした。「決めつけ、人権、不合理、差別」などの言葉を教師がどう理解し、授業で出てきたときにどう返すのか研修する必要がある。 ・低学年こそ、「わたし」の気持ちを中心に据えることを基本にすることが大切。 ・役割演技の「ダメ」の理由が不明。今回はジャングルジムに登るのが遅いからダメ。 ・「はるちゃんがダメ」ではなく、「はるちゃんの行動がダメ」ってことを押さえない。

【B】グループ協議

よかった点	改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・学習に向かう姿勢 集中の持続 ・支援を要する子への配慮 ・狙いに沿った指名、考えを引き出す ・意見交流で、みんなが授業に参加できる →話す機会の多さ ・資料選びの工夫 ・はるちゃんのあっかんべーはるが悪者に ・「こんなのおかしいよ」を入れることで広がり生まれた ・素直な意見が出ていた ・発表のあり方思ったことでもOK→広げる ・〇〇先生の技量、普段の関わりが生きる 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料選びの大変さ ・資料に入りこませるのは ・意見交流は同じ意見が集まりやすい →高学年→葛藤の場面を多く入れたい ・きめつけの意味を理解しているか →1年生なりの言葉で →一言でもいいから引き出す工夫 →対話するには ・はじめから理由をつけるのはしんどい

【C】グループ協議

よかった点	改善点
<ol style="list-style-type: none"> ①役割演技で内容が理解できている人から全体の理解につなげつつ本時のめあてに迫ることができたのではないかな。 ②〇〇先生節、授業のあり方、本時の課題に迫る切り返しパターン、問のとり方 ③役割演技の中で自分の立ち位置がわかる。(低学年は使っていきたい) 役割の準備が簡単にできそう(首からかける)で◎ ④部分部分でも役割演技をいれる(練習) ⑤ワークシート、意見の書き方、 ⑥発問の中で子どもに考えさせたい「どうしよう」 	<ol style="list-style-type: none"> ①資料が難しい。 ②ワークシートの時間を取るか役割演技の時間を取るか。 ③はるちゃん、差別する側として資料の中(場面3)に容れられた姿があればさらに良いか。 ④役割演技の中で切り返しの問いかけがあっても良い。「どうしてだめなの」→「なつみちゃんが悲しんでいるから」まで

講師助言

- ・【指導案について】「弱い立場」とみなす×
人権の視点...「〇〇することは、■■することにつながる。」
- ・【教材選定】部落差別解消に向けて 低学年から積み重ね
 - 1・2年生...うわさや見た目で決めつけることのおやまり
 - 3・4年生...地域教材・福祉
 - 5年生...皮革産業 6年生...部落差別解消法・ネット
- ・【ワークシート】普段から書くように 書いて終わりにしない 訓練が必要
- ・【めあて】(1)と(2)のタイミングでOK

9 授業の成果と課題

本時の展開を考えるにあたり、ほほえみの資料を改作し文章化することで、児童は日常の場面と同じように考えることができた。また、役割演技を取り入れることで自分事として考えやすくし、自分の思いを自分の言葉で発表することができた。その結果、友だちの願いに気付いて行動し、だれとでも仲良くしようとする意欲をもたせることができたように思う。しかし、今後もまだ自分中心の言動が多いことが考えられる。学校生活や社会生活において、児童の行動をじっくり見ながら、友だちの願いや思いに寄り添った行動をし、仲良く遊べるよう促していく必要があると思われる。

「いっしょにあそぼ」ほほえみ（改作）

〔資料①〕

わたしは大休みにはるちゃん達とジャングルジムで遊んでいました。

なつみちゃんが、一人ぼっちでいたので「いっしょにする？」と声をかけました。

なつみちゃんはすごくうれしそうに「うん。」といました。

すると、はるちゃんが「だめっ」と言いました。

そのまま遊んでいたけれど、わたしは変な気持ちでした。

わたしがはるちゃん達と遊ばなかったらなつみちゃんと遊べて、

なつみちゃんが一人にならずにすむのだけど、今度のはるちゃんがわたしと遊んでくれない
と思ったからです。でも、なつみちゃんはさびしそうにしています。

〔資料②〕

その時です

「こんなのおかしいよ。」

一緒にあそんでいたけんちゃんがつぶやきました。けんちゃんのことをきいて、わたしは
はっとしました。「なつみちゃん・・・。」

わたしは、いっしょにあそんでいたけんちゃんやみんなに話してみることにしました。

〔終末〕

昼休み、わたし達はなつみちゃんに声をかけました。

「何してあそぶ？」なつみちゃんもみんなもにこにこしています。

みんなでなかよくたのしくおにごっこをしました。

わたしは、とってもうれしかったです。